

飛騨高山高等学校に イノベーションを起こす！！

日本ドラッカー学会で商業研究部が発表～

飛騨高山高生「ドラッカーの教えに学べ」



本番で発表する内容を確認する生徒ら - 高山市下岡本町、飛騨高山高校岡本キャンパス

イノベーション、どう起きる

高山市の飛騨高山高校商業研究部が、経営学者ピーター・ドラッカーの教えから、イノベーションが起きる原理を学んだり、地域課題の解決法を考えたりする取り組みに挑戦している。21日には、同市内で開催される「ドラッカー学会第18回飛騨高山大会」で、これまでの学習成果を披露する。2年和田拓哉さん(17)は「自分自身にとってためになることが本当に多い。発表は不安もあるが、頑張りたい」と意気込む。

(玉田健太)

本番で発表する内容を確認する生徒ら - 高山市下岡本町、飛騨高山高校岡本キャンパス

きょう学会で検証成果を発表

部員たちは、ドラッカーの著書「イノベーションと起業家精神」を読み、書かれている教えを現場で学んできた。例えば、本の中でイノベーションが起これば、新しい機会に「予期せぬ成功や失敗を利用する」ことが挙げられており、市内約20の薬局や文房具店、農園といった事業者で検証。これまで想定外の問い合わせや要望がなかったかや、思いもよらず好評を得た取り組みを聞いて回り、イノベーションが起きるきっかけなどを学習した。

また、高山、飛騨両市の企業自社の事業についても分析。どういった機会が自社の強みや特徴を生かした結果、その事業に結び付いたかなどをまとめた。

和田さんは「イノベーションは誰にでも起こせるということが少しずつ分かってきた」と実感を込める。

活動に協力してきた飛騨高山大会の実行委員長を務める武田良彦さん(59)は「大人たちの10倍のみひまが早く、ドラッカーの教えが身に付いてきている。発表当日は見に来る大人たちの反応が楽しみ」と話した。